**荏原第五地区“新”連合町会長　二葉三丁目町会　上村和雄会長インタビュー**

今年度5月、荏原第五地区の連合町会会長に二葉三丁目町会の上村和雄会長が新たに就任しました。今回、上村会長ご本人にお話を伺うことで、その人物像に迫りました！

Q.自己紹介をお願いします。

「戦後のベビーブーム、団塊の世代真っただ中の生まれで国立市で育ち、中学受験・大学受験の激戦の中で育ちました。結婚して家内の家に(テレビアニメ『サザエさん』の)マスオさんの状況？で入り既に54年が経ちました。前職はゴッホの『ひまわり』を当時58億円で購入した会社にいました。その当時は営業にいて『もっと安くしろ』と散々な目に遭いましたが、文化的遺産として購入したことに先見の明があったことに満足しています。」

Q.町会役員を始めたきっかけは何ですか。

「入社当時から55歳（今は65歳）で定年退職をしようとずっと考えていました。役員に定年はないのですが、後進に譲ろうと思いフリーになりました。尺八でも吹いてのんびりしようとしていたそんな中、時間があるなら町会長として町会の活動に参加してもらえないかと打診がありお引き受けしました。現役時代は猛烈社員の時代で家に寝に帰るだけの日々をすごしていましたので、地元町会が何をしているのかもわからず、今後は地域に根付き恩返しのつもりで参加させてもらいました。」

Q.趣味について教えてください。

「学生時代からテニスを続けて50年以上経ちますが、お陰で肩こりの経験はありません。現在も土日にコートを走り回っています。またヨーロッパに旅行した際には必ず美術館に行き大好きな『フェルメール』（生涯30数点しかない）全部を鑑賞踏破したいと思っていますが、ヨーロッパの所蔵は踏破したので、あとはアメリカが残っています。更にヨーロッパの鳥瞰図を集めています。石の文化のヨーロッパは数百年前と殆ど変化はなく、都市の建物はそのまま残っていますので、自分が歩いたところを辿っていく楽しみがあります。」

Q.新連合町会長として、どのような荏原第五地区を目指しますか。

「それぞれの地区に古き良き伝統・習慣がありますが、コロナを契機に良いものは残して時代に合わせて変えていきたいと思います。岩手黒石寺の蘇民祭も地元の担い手不足で惜しまれつつ今年で終了と聞いています。荏原第五地区はまだまだ活気がありますので、多くの方々が活動・行事に参加しやすいよう企画していきたいと考えています。」

Q.えばごReport の読者に向けてひとことお願いします。

「荏原第五地区が少しでも前進できるように皆様からの貴重なご意見を沢山いただきたいと思います。」